弓削通信 フェニックス

2013.7.15 №38（通巻165）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509　愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

父も兄も弟も海員組合に守られた

▲生名地区厳島に今も残る濱田国太郎顕彰碑の一部。頂上には等身大のだ銅像があったという。

郷土の偉人・濱田国太郎

町内生名島出身の濱田国太郎を知っている人は果たしてどのくらい居るのだろう。

筆者が国太郎のことを始めてそれと知ったのは、現在生名島在住の弓削商船高専、岡山商科大学名誉教授、我が町の文化財保護審議会の会長もされていた村上貢さんの講座、たしか今から十年ほど前、からだった。

そもそも濱田国太郎とはいかなる人物なのだろうか。それを知るのは前記村上さんの著書「海父・濱田国太郎」―海員組合を創った男―（海文堂出版・平成二一年初版・1600円）に詳しいが、本のタイトルにあるように明治六年、瀬戸内海の小島（生名島）に誕生、十数歳で外国航路の船員となり、当時厳しい労働環境に置かれていた仲間たちと共に海上労働者運動に身を投じ、大正十年、「日本海員組合」副組合長。昭和二年、二代目の組合長となり、昭和十年までその重責を担い続けた。

労働運動は人権保全闘争

労働組合組織のない昔日の船員の待遇は、士官と呼ばれる高級船員と、部員と呼ばれる普通船員とでは待遇に雲泥の差があり、かつ労働も過酷であったという。

弓削島出身の田坂初太郎や田坂為松は高級船員（士官）養成のため明治三十四年、海員学校（現在の弓削商船高専前身）の設立に尽力したが、裏を返せば自身の体験をふまえ士官に比べて普通船員の待遇が劣悪だったからにほかならないだろう。

ともあれ濱田国太郎はじめ、その後に続いた海員組合指導者によって船員の組織化が進み、それにつれて待遇も改善されるに至った。

船員は当然士官よりも普通船員の方が圧倒的に多い。普通船員の待遇改善に粉骨砕身した国太郎が船乗りから海父と呼ばれても決してすぎたることではないだろう。

偉人を讃える人々

話は変わる。尾道は林芙美子という有名な作家が住んだ港町としても有名である。林芙美子は尾道に生まれ尾道で生涯を閉じたわけではないが、幼少期に過ごした尾道を題材に様々な作品を生み出した。そういうところから今でも尾道市民の尊崇を集め、忌日は紫陽花忌としていろいろな催しがされている。

先日その催しのひとつ「大人のための朗読会」というものを見物に行った。実行主体は尾道市向島市民センター。林芙美子生誕百十年記念として、しまなみ朗読会「わすれな草」という朗読グループが、芙美子の尾道にまつわる作品を朗読した。

「大人のための朗読会」とはいえ芙美子の作品の朗読に百人を超える視聴者がいたのに驚いた。

▲尾道市の朗読グループ「わすれな草」による 第14回大人のための朗読会風景。～林芙美子作品を読む～

郷土の偉人を識る、知らせる

概ね郷土の偉人という人々は直接に郷土に何事かをしたという例は、むしろ少ないだろう。しかし世の中全体から見れば大きな足跡を残した。だからこそ郷里の人々はそれを誇りに思い追慕の念を篤くするのだろう。

冒頭に記した濱田国太郎も、日本が世界に雄飛を始めた時代に下層で働く海員の待遇改善に大きな寄与をした。以後この町出身の海員もそれに支えられ仕事を全うできた。つまり家族も地域も恩恵を被った、ということになる。

濱田国太郎が海員組合組合長全盛の頃、その功績をたたえるために生名島厳島に巨大な顕彰碑が建立され、等身大の銅像もあったと聞く。戦時中その銅像は金属資源として国に供出された。溶かされて銃弾になったか、はたまた鍋釜になったかは定かではない。

昔日の人々は彼の恩をわすれないために顕彰した。では後世の我々も、改めて国太郎を地域の誇りとして讃え直す活動があってよいのではないかと思う。昨年橘で繋がった生名島と弓削島から、まずはそういう運動をおこすのも面白い。

（平山和昭）

海員組合を創った男

濱田国太郎（明治六年～昭和三三年）は、しまなみ海道の一角の小島に誕生し、やがて生涯の職業となった船乗り生活に身を投じ、同じ境涯の仲間たちと共に、未来に夢を求めて奮闘した。全力を振り絞って明治・大正・昭和と日本の近代社会を築き上げたのは、まさしく彼らであったのではなかろうか。（村上貢 著 海父・濱田国太郎あとがきより）

きどぐち 三十八

青木喜代子

姫路城へ行った。平成の大修理の真っ最中。しかし、普段は絶対見ることの出来ない改修作業を特等席でお見せします！と。

裏方を見せてお金にする姫路市長もあっぱれである。今だけとかの限定に弱い私達は汗だくになりながら城の中へ。そしてエレベーターに乗り特等席へと。城主の紋の入った瓦を前にしたとき「あっ！私の紋と同じ！」「あっ！私も！」。それまで静かだったオバチャン達が急に騒ぎ出した。私と同じ紋とは、畏れ多くも桐の御紋である。「えっ、これは男紋でしょ？」と私。「いやいや合ってるって」と言い切る。「それなら貴女の紋は？」と問われ「フセン蝶に花菱。祖母も母も同じで女紋なんです」一同「へ～～、初耳」と私は孤立状態。

独身時代に着物を誂える際呉服屋さんが「紋は桐でいいですね」と。すると祖母が凛とした口調で「いえ、うちは浮線蝶に花菱でお願いします」と。その時初めて男紋と女紋があること、私の紋は何代も続いていることを知った。嫁いでも私は私ですという自立の姿勢なのか。不幸にして出戻っても着られるという合理性なのか本当の理由は聞かずじまい。

先日、母方の大おばから一度袖を通しただけの訪問着を譲り受けた。紋が同じなので私が着ても何の不都合もない。後々には娘の寸法に仕立て直そうと思っている。いや見事なシステムである。

私も女紋よ！って方、おられましたらご一報を。本当の理由を教えてくださいませ。

あっ！姫路城ね。三年後に巨大なカバーの取れた白鷺嬢を見に来にゃいかん！と言うことに。修理見学ツアーで幾ら儲けたんだろうと、姫路市の収支を計算した旅でした。

渡る蝶
母から娘へ
女紋

●日本中ツバメは減少傾向にあります。

弓削通信フェニックス

2013.7.15 №38（通巻165）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

行政と住民と共働の町づくり
過去の総括無しには前へ進めぬ

議員活動録（8）議会議員・平山和昭

六月議会で問題になったこと

六月定例議会は十九日～二十六日までの会期で開催され、十九日中に全ての議案の審議が終了しました。

六月議会は補正予算案の審議が主たるものですが、今議会の補正予算案のうち議論になったのが「上島町生活航路維持事業補助金」つまり民間航路業者に公費でもって運行経費の一部（燃料費）を助成するという事業案です。

この案件は平成二十五年五月二十四日、町内に寄港する3フェリー事業者から「燃料価格高騰に対する支援についての要望書」が出され（同一内容が五月二十七日議長宛提出）直ちに理事者（町当局）により検討が開始されたとみえ、六月十二日には定例会前の魚島で開催された全員協議会で支援を前提にした説明がなされました。

それによれば、当該3航路事業者（弓削汽船・長江フェリー・家老渡フェリー）から平成二十四年の資料提供を受け補助金試算をおこなったところA、B、C社合わせて865万円。平均の300万円×5社分1500万円を六月補正予算案に計上、認められれば七月一日から補助開始というものでした。

修正案可決

試算内容の詳細や手回しよく作った補助金交付要綱案についての詳述はこの場で行いませんが、結果的にこの補助金を一般会計補正予算案から削除した修正案を議員が提出し、賛成多数でそれが可決されました。

修正案提出理由は、民間事業者の経営に関し公金の投入はその公正・公平性及び行政姿勢の一貫性ならびに将来にわたる町財政負担の観点からでした。

公金による民間業者支援

法的根拠が無いわけではないが

もともと公金の使途については地方自治法において「普通地方公共団体は、その公益上必要がある場合においては、寄附又は補助をすることができる」（第232条の2）とされており、これを根拠に民間等への補助が行われている実態があります。その論からいえば公益性のある民間航路業者への補助は可能であり、このたびの公金による支出案も、条件が叶えば法的には問題なさそうです。であるならば赤字なので止めたいと言ってきた弓削・尾道直行便もその対象として検討のまな板に上げられたはずです。

恣意的と見られてしまう

町長は民間航路への公金支出は難しいとして、議会議員全員の要望書や、住民からの署名嘆願には冷淡でした。後になって尾道航路への支援ができなかったのは、航路業者から具体的な金額の提示がなかったとか、対象が1社だけだったとか、事業者の人品に問題があったとか、支援検討の資料にするための正式な決算書を提出しなかったとかの理由をあげてきますが、要するに尾道航路支援には取り組む必要はないと判断していたということになります。それを前述の如く、自らの不作為を他者のせいにするようなことを言い続けるならば、この度のように、まだ起きてもいない利用者の不便を先取りし3航路業者に支援がするのなら、なぜ同じように確実に来る利用者の不便を先取りして尾道航路の支援を真剣に検討せず放置したのかと、常に話はそこへもどってゆくのです。理事者の方法論が恣意的と見られてしまうからです。議会は行政のチェック機関です。公金の使い方に過去との整合性を求めるのは当然です。その整合性をどうつけるかが理事者や議会の説明責任というものではないでしょうか。

上島町の財政的将来は決して明るいものではないゆえに、将来を見据えた真摯な議論が必要です。生活航路への支援もその延長線上にあるべきで、場当たりともみえる拙速な前例をつくるべきではありません。

過去を総括する必要がある

議会には根拠になる情報を充分示さぬまま施策を押してくるなら、予算審議にあたっては紛糾する。この度がよい例です。そういう文脈でみれば過去の尾道航路業者への対応と、この度の3フェリー航路業者への対応は行政スタンスの一貫性の欠如であり、施策の過去との整合性がないことになるのです。

蛇足ながら尾道航路に関していえば、今もなお多くの町民が不便を感じている現実に鑑み、その問題に関し理事者による総括がなされない限り今後も航路への公金支援問題はかたづかないと　筆者は考えます。

過去の施策とこれからの施策との整合性を図るには、先に述べたように結果的に行政の不作為によって今なお多くの町民に不便をかけてることに関し、まずは行政の責任者として（最も不得手なことであろうが）町民に謙虚にお詫びをすることが「総括をした」ということになると考えます。

（上の写真は尾道航路最終便を見送る町民）

やよみ亭　映画研究会
（無料）7月15日（月）19：00～
【どなたでもお気軽に覗きにおいでください】

ドキュメンタリー映画「オーシャンズ」
●世界中の海とそこに暮らす生命体を革新的な映像美で描く。　監督：ジャック・ペラン

かみじま自然学校
目的：ふるさとの自然について学び体感する機会をつくる。
主催：NPO頼れるふるさとネット
指導：自然観察指導員・環境カウンセラー　滝田一郎氏ほか
●毎月1回程度開催　保険料等に100円程度の参加費が生じます。予約制。7月、とんぼ観察会（募集締め切り）、　8月、海辺の生き物観察予定。本年度は生名島を中心に活動します。
●毎月プログラムがかわるので詳しくは下記へお問い合わせください。
●ボランテイアでお手伝いして下さる方募集中
0897-72-9188　やよみ亭

サボテンと私

安藤朋生（ともき）
茨城県

サボテンの花が咲き誇っている。プランターに植えた人の手のような形のサボテンは１０年経ったある日、その指先にぽこぽこと花を咲かせた。黄色の柔らかな花はそれ以来、毎年咲くようになった。１０年の時を経て咲いたサボテンもあれば、去年父が友人に貰い地植えしたまぁるいサボテンは、１年足らずで見事な花を咲かせた。花は柔らかな淡いピンクなのだが、左右に２本まるで万歳をしているかのように、力強く天を仰いでいたのだ。たった２日間の花だったが、誰もそんな風に咲くとは思っていなかったからとても驚いたし感動的でもあった。

サボテンの花が一番好きかもしれない。時期がくれば咲き出す花より、いつ咲くか分からない気まぐれな所がいい。花の苗を植えて咲かないのはとにかく残念でならないが、サボテンに関してはまぁきっとそのうちと思う気持ちでみてしまう。あの容姿がそう思わせるのだろうか。

人もサボテンみたいなものだ。気まぐれで時々トゲを刺し、チクチクとしばらく痛ませる。そうかと思えば鮮やかな花を咲かせ、いつまでも見ていたくなる。他の花々より多少扱いが雑でも一度根を張れば冬の霜にあたっても年を越し、ちゃんと暖かな日には花を咲かせる。そしてどこにでも根を下ろすことが出来る。たくましいのだ。

旅好きのおじ様に、車にナビがあるのに出掛けないのは何たることか、私くらいの年に方々出掛けたものだと熱く語られてしまった。おじ様の年頃には同じくらい旅先の話が出来るように再び島旅の計画始めます。

島に住みたい ㊱